

4. 東海（地域別調査機関：（株）UFJ総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・売上は引き続き好調を維持している。
		その他サービス [介護サービス]（職員）	来客数の動き	・介護保険対象の福祉用具レンタルが、毎月出荷増となっている。
その他住宅投資の動向を把握できる者 [室内装飾業]（経営者）		販売量の動き	・リフォーム関係の物件が増加しており、新築もやや上向き傾向にある。	
やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数は例年より増加している。	
	商店街（代表者）	単価の動き	・デジタルテレビ等の動きが良くなっている。ワールドカップ効果というよりも、買替え時期が来てデジタルテレビを選んでいる。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・電話注文が増えてきている。	
	一般小売店[生花]（経営者）	お客様の様子	・フラワーデザイン教室の生徒数が少しずつ増加しており、問い合わせも以前より多くなっている。	
	一般小売店[土産]（経営者）	お客様の様子	・単価が低く小型の土産物を数多く買う客が増えている。	
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・高額商品が売れるようになってきている。	
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数は前年をやや下回っているが、売上は若干伸びている。3月はヤング層が売上を押し上げてきたが、今月は年齢の高い層で売上が伸びている。	
	スーパー（経営者）	販売量の動き	・来客数が増えている。	
	スーパー（店長）	お客様の様子	・プラズマテレビの高額の新商品の動きが良くなっている。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・平日の来客数が15%ほど増加している。ただし、売上はそれに比例して増加とまではいっていない。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・例年より気温が高いため、季節商品の先取りで商品回転が良くなっている。 ・客単価と商品単価が対前年比99%まで回復している。来客数の増加とも相まって、売上に反映している。利益率もアップしている。	
	スーパー（店員）	来客数の動き	・客単価は前年ベースに戻っていないが、来客数は前年比で100%を超えるようになってきている。	
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・比較的高額な商品の回転がよい。例えば1万円前後の高級ブランドのポーチ等が良く売れている。	
	スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・客単価は前年を下回り、既存店ベースのトータルで前年を数%下回っているが、来客数は前年をクリアするレベルにきており、徐々に好転しつつある。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・4月前半は苦戦していたが、後半は回復基調である。	
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・以前は高額品は見るだけのパターンが多かったが、最近は接客段階で購入意欲を感じる。高額品がかなり売れ始めている。	
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・売れる価格帯がばらけ、全体的に偏りのない動きに変わりつつあり、前年並みの数字が取れるようになってきている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・高級車の販売量はかなり落ち込んでいるが、小型車の売行きが非常に好調で、高級車の減少分を補っている。	
	住関連専門店（店員）	販売量の動き	・春の新生活用品の売行きが良く、対前年比で売上が増加している。気温の上昇で、初夏の商品が売れたのも貢献している。	
	旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・需要の拡大とまではいかないが、来客数の動きは対前年比でかなり増加しており、比例して販売量も増加している。	
タクシー運転手 テーマパーク （職員）	お客様の様子 来客数の動き	・客がやや増加している。 ・来客数は順調に増加している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・安くて家族が1日遊べる「安近短」志向が相変わらず強く、財布のひもは固いが、来客数は増えている。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・来客数が3月から対前年比でプラスになっている。ただし平日は増加しているが、土日祝日は減少している。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・販売量のみならず、客単価も上昇してきている。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数は徐々に増加してきているが、客単価が伸びず、自家消費分も増加してこない。
		商店街（代表者）	単価の動き	・数か月前から商品単価が小さくなっているが、最近では単価が低いなりに安定してきており、下げ止まった感がある。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・単価の高いものでも売れている。
		商店街（代表者）	競争相手の様子	・スーパーが安売りしており、売上が伸びない。今まで外国製品は扱ったことはなかったが、先月から中国、台湾製も扱い始めた。
		一般小売店〔電気屋〕（経営者）	単価の動き	・販売額は対前年比で変わっていない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・来客数は増えているが、低価格商品に移行しているため、思ったほど売上は伸びていない。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	来客数の動き	・必要な物は買うが余分な物は買わない傾向は変わっていない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・土日は少しずつ来客数も増加しており購買意欲が感じられるが、平日は相変わらず来客数も少ない。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・全体的に来客数が少ない。バーゲン等の初日は良いが、翌日からは前年を下回っている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・全体的な販売量、単価ともにほぼ横ばいである。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・先月は衣料品関係がかなり良かったが、今月はその反動が単価も販売量も厳しい状況にある。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・弁当よりもおにぎりの動きが活発になるなど、低単価志向が強まっている。 ・閉店前の見切り販売商品狙いの客も増加傾向にある。
		スーパー（店員）	お客様の様子	・全体的に購買意欲は弱く、安い商品は非常に売れているが、定番商品の動きが悪い。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は増えているが、購買意欲は低迷している。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数は回復しているが、平均客単価が前年同期とくらべても相変わらず低く、これを打開する材料も見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数が前年を多少下回る店が多いが、客単価の低下はそれ以上に深刻である。特に雑貨の低下が大きい。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・売上は対前年比で100%を割っている。
		衣料品専門店（企画担当）	お客様の様子	・夏物衣料の前倒し傾向が続いているが、その分春物衣料の動きが悪い。 ・新しい商品には購買意欲がみられるものの、従来品はバーゲンでも価格にシビアである。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・販売量は減少しているが、単価は上昇しているため、全体では横ばいである。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・転勤、入学の時期であったがそれほど大きな山はなく、客は熟慮して買い物している。
		自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・来客数が落ち込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・低価格志向が相変わらず強い。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・弱含みだが、新車に対する客の興味はやや上向いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・1日当たりの販売量が増加している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・RV車や小型車の販売が多く、前年をクリアしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・仕事は忙しいが儲からないという客が多く、新車購入にも慎重である。		
		住関連専門店（店員）	来客数の動き	・ファミリー層の購買力が落ちており、売上が伸びない。		
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	販売量の動き	・高額商品やお値打ち商品は売れるが、その中間の商品が売れない。		
		高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・接待利用客が依然として減少しており、客単価も低下している。		
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・売上は低水準ながら回復軌道にのっているが、イベントによる販売促進の効果は、従来にくらべて7～8割にとどまっている。		
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・客数は増加しているが平均単価は上向いていない。		
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は多少増加しているが、客単価等は変わらない。		
		スナック（経営者）	来客数の動き	・相変わらず歓送迎会等の客は増えず、人の流れが少ない。		
		スナック（経営者）	単価の動き	・多人数で来客して、値引き交渉をする客が多い。		
		バー（経営者）	お客様の様子	・給料の一部カットなどにより、客の使えるお金が減少している。		
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・客数は増加していない。		
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・安い商品にはある程度の反応がある。		
		通信会社（社員）	販売量の動き	・名古屋など都市部では受注数にあまり変化はないが、郡部は少しずつ伸びている。		
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・4月は例年であれば追加のサービス申込が増える月であるが、今年はそれがみられない。		
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・付加価値の高いサービスよりも、経費節減のためのサービスが中心となっている。		
		その他レジャー施設〔劇場〕（職員）	単価の動き	・販売数は伸びているが、単価を下げているためである。		
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数と売上は落ちてはいないが、伸びがあまりない。		
		設計事務所（職員）	競争相手の様子	・競争企業をみると、手広くやっている会社ほどダメージが大きい。建築業界から転職する人もいる。		
		やや悪くなっている		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・これまで好調だったヤング、キャリアの婦人服の伸び率が低下している。それに伴い、店全体の売上の伸び率も鈍化してきている。
				百貨店（経理担当）	販売量の動き	・法人を中心に売上はかなり落ち込んでいる。
百貨店（外商担当）	来客数の動き			・客宅を訪問し催事に勧誘するなど来店を促しても、なかなか来店してもらえない。		
コンビニ（店長）	お客様の様子			・これまでコンビニを利用していた飲食店経営の顧客が安い店へ流れたり、値引き交渉も増加している。		
コンビニ（店長）	来客数の動き			・花見が早く終わったため、アルコール類やソフトドリンクの売上が悪い。		
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き			・来客数の減少、客単価の低下が相変わらず続いている。		
衣料品専門店（店員）	単価の動き			・客単価の低下が目立つ。		
住関連専門店（営業担当）	単価の動き			・官公庁、民間企業、個人住宅ともに新築工事が減少しており、価格競争に拍車がかかっている。		
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き			・例年よりも研修や宴会の利用が少なく、宿泊客も連休以外はかなり少ない。		
旅行代理店（経営者）	来客数の動き			・来客数が対前年比で顕著に減少している。		
タクシー運転手	来客数の動き			・遠距離客が減っており、時々利用する客も回数も減っている。		
美容室（経営者）	来客数の動き			・カットの周期が遅れている。		
美容室（経営者）	お客様の様子			・客の回転が相変わらず悪い。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・具体的な計画や案件が減少している。	
		住宅販売会社（従業員）	それ以外	・取引先の建材メーカーが海外からの低価格商品に対抗できず、倒産している。	
		住宅販売会社（企画担当）	販売量の動き	・契約件数が減少している。	
	悪く なっている	一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・高額品の動きが全くなく、来客数もますます減少している。	
		スーパー（経営者）	競争相手の様子	・競合店との価格競争が激しい。	
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・歓送迎会の客も少なく、街全体が閑散としている。	
		その他サービス〔珠算塾〕（経営者）	それ以外	・通常見込める新入生の入塾がほとんどなく、逆に子供の意向と関係なくやめる生徒が多い。教育費や習い事の節約が始まっている。	
		設計事務所（営業担当）	それ以外	・受注状況が良くない。	
	企業 動向 関連	良く なっている	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・貨物量が例年よりも多く、顕著に増加している。
		やや良く なっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節変動以上に、商品に動きが出てきている。
化学工業（総務担当）			受注量や販売量の動き	・IT関連製品の動きが良くなりつつある。	
化学工業（企画担当）			受注量や販売量の動き	・ほとんど変化はないが、狂牛病関連で減少していたものがかなり回復してきている。	
化学工業（営業担当）			受注量や販売量の動き	・パチンコ関連設備の受注量が増加している。	
電気機械器具製造業（経営者）			受注量や販売量の動き	・輸出は米国テロの影響から脱して前年並みに回復してきているが、国内向けは前年同期を下回っており動きが鈍い。	
税理士			取引先の様子	・取引先各社は売上が思ったよりも落ちておらず、一方で新規出店しているところがある。	
変わらない		食料品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売量が伸びていないことから、低価格販売が依然として続いている。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量の低迷が続いている。	
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・競合他社の値引き競争が更に激しくなっている。	
		一般機械器具製造業（販売担当）	受注量や販売量の動き	・引き合い数は多いが、受注に結びつく案件が少ない。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・対前年比で売上は3割程度減少しており、昨年末から低迷が続いている。	
		電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・中国でアパレル製品を増産しており、工業用ミシンの受注が増加している。その一方で国内向けは低調であり、高付加価値機器の受注が少ない。	
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・国の補助事業が昨年来続いており、引き合いも依然として増えている。	
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価が低下してきており、競争は激化している。	
		建設業（経営者）	取引先の様子	・取引先の設備投資がほとんどなくなってきた。	
		輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・値下げ要求をする客はまだあり、荷物のトンあたり単価はまだ下げ止まっていない。	
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・引き続き案件が少なく、単価も厳しい。	
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・新規案件もあるが、予算的な理由でのキャンセル等もあるため、トータルで見ればほとんど変わっていない。	
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・チラシは全体で若干減少しているが、サービス業や不動産は増加している。	
		税理士	取引先の様子	・顧問先は、経費の節約やリストラ、アウトソーシング、固定資産の売却など様々な方策を講じてきたが、万策尽きて現状維持を図っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	経営コンサルタント	それ以外	・土地の取引件数は減少を続けている。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量ともに最低レベルを更新している。
		非鉄金属製造業（社員）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価の下落に歯止めがかからず、利益率はまだまだ悪化する。
		電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年に入り受注が上向き始めたが、3月以降はまた下がっている。
		輸送用機械器具製造業（工務担当）	受注量や販売量の動き	・高級乗用車があまり思わしくない。
		輸送用機械器具製造業（統括）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価の引き下げ要請が依然として続いており、採算確保がますます厳しくなっている。
		輸送業（エリア担当）	競争相手の様子	・運賃が引き続き低下傾向にあり、不況に強いとされた運送会社でも特に中堅企業に倒産が増加している。
	公認会計士	取引先の様子	・建設や住宅関連が不振である一方、IT関連の下請け中小企業も体力的に限界に近づいている。また、銀行の融資姿勢が厳しいため、突然破綻する中小企業が散見される。	
	悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・回復の兆しがなく、更に下降に転じている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量が減少している。
非鉄金属製品製造業〔鋳物〕（経営企画）		受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。	
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	アウトソーシング企業（エリア担当）	採用者数の動き	・IT関連の求人数が徐々に上向きになりつつある。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	求人数の動き	・求人数に変動はあるが、趨勢としては増加している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・倒産やリストラ企業の件数が減少してきている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人票の総数が昨年より3割増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・各企業ともあまり変わらず、好転していない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣の注文は、対前年同月比で下げ止まりの兆候がみられる。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・好調企業の一部で求人ニーズが盛り返している一方で、派遣社員のカットの動きも相変わらず続いている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告件数は対前年比で非常に悪い状態であるが、ここ数か月は下げ止まっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告は前年同月比70%で、上向き傾向から逆戻りしている。
職業安定所（所長）		求職者数の動き	・求職者数の増加傾向が続いている。	
職業安定所（職員）		求職者数の動き	・求職者はまだまだ増えている。	
民間職業紹介機関（エリア担当）		求人数の動き	・求人数はほぼ横ばいである。	
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・派遣料金の改定を申し入れても、ほとんどの企業で料金据え置きを求められる。	
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求人は上昇しているが有効求職者はそれ以上に上昇しており、有効求人倍率は低下している。特に新規求職者は3か月前に比べ約5割も増加している。 ・非自発的離職者の割合は前年同月は2割弱だったが、3割超となっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は対前月比で9.1%の減少、対前年同月比で13.2%の減少で、例年は1.7%程度であるので特に減少している。
	悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人はこれまでになく落ち込んでいる。特に正社員の落ち込みが著しく、先月の回復から一転して再び悪化している。